



うまい！安い！ためになる！

教会バザール2015

11月23日
(月/休)
午前10:30
開始

バザールの目的について

今年度のバザール収益金は、主に以下の目的のために用いられます。

- ① 東日本大震災被災者・福島原発被害者のために⇒共生地域創造財団
- ② アフガンでの医療活動のために ⇒ペシャワール会へ
- ③ アジアの農業研修生支援のために ⇒PHD協会へ
- ④ ホームレス自立支援のために ⇒NPO 法人 抱樸(旧：北九州ホームレス支援機構)へ
- ⑤ 「障害」者施設のために ⇒久山療育園へ、太陽パンへ
- ⑥ 海外での医療活動のために ⇒キリスト教海外医療協力会へ
- ⑦ ルワンダの平和と和解のために ⇒佐々木さんを支援する会へ
- ⑧ 東八幡キリスト教会の活動のために (新教会堂建築費用)

今年もやります！

とれたて **新米！****れんげ米**毎年大好評の新米を
今年もどうぞ！

11月1日より配達開始

5kg 2400円(配達無料)

数に限りあり。お早めにお申し込みを。

電話/FAX 093-651-6669

品物提供のお願い

バザールは、毎年主旨に賛同くださる多くの方々のご厚意の品物によって支えられています。今年もよろしくお願ひします。

集めている品物

- ①新品食器類
- ②タオル、毛布、シーツ類、石鹸
- ③新品家電
- ④新品衣類
- ⑤趣味の品・鞆・靴
- ⑥古本・CD・DVD
- ⑦子ども用品・おもちゃ

その他なんでもOKです。

但し申し訳ありませんが、**新品もしくは、それに準ずるものに限定していただいております。**(古本おもちゃは除く)。

ともかくお電話ください。頂きに伺います。どうぞ、よろしくお願ひします。(受付期間：10月27日～11月15日)

GOOD
DESIGN

皆さまのお祈りとご支援により建てられた『軒の教会』が、この度2015年度グッドデザイン賞を受賞することになりました。

(設計：手塚建築研究所 施工：東建設)

また、JIA 優秀建築選集 優秀建築選(100選)に選ばれました。

2016年春刊行予定のJIA建築年鑑へ掲載されます。

これまで東八幡キリスト教会をお支えいただきましたことに心から感謝申し上げます。その応答として『軒の教会』が、人と人が出会うための軒であり続けたいと思います。



クリスマス教エッセイ「冬と向き合いつつ生きる―伴走型支援を考える」

ホームレスの支援や生活困窮状況にある人への支援を「伴走型支援」と呼んできた。ただ「伴走」は支援の「手法」を意味しない。経済的に困窮しているのみならず、何よりも「孤立している人」に対する支援において「伴走」という「関係」や「つながり」が重要な意味を持つ。まさに、今日のよう「無縁化」が進んだ時代においては「伴走」は大事だった。話は変わるが私は、仏教詩人坂村真民が好きだ。その真民の有名な詩に「冬が来たなら」がある。「冬が来たなら 冬のことだけ思う 冬を遠ざけよう」としたりしないでむしろすすんで冬をたまたまにふれよう 冬のいのちがふれよう。この詩に心が打たれた。冬を遠ざけることはできない。向き合うしかない。「やはりそうなのだ」。諦観というより解放された気持ちになった。

冬の寒さの中にたえずむむ。私たちは、春を求めて呻吟する。その先にあるはずの光を信じて暗闇に彷徨することに耐える。冬の只中で春を思い続けているのだ。「冬来たりなば、春遠からじ」。先に希望がある。それを頼りに生きて行く。しがみつこうようにそれを信じて耐えている。「春よ、来い！」それが私たちの本音だ。だが春はすぐには来ないのだ。それが私たちの現実だ。多くの人は、そのことに気づいていない。ただ、それを認めるに耐えられないので、まだ見ぬ春に思いを馳せる。しかし、その結果「今」が無くなる。自分の現実が嘘のように思え、「これは本当の自分の人生ではない。こんなはずじゃない」と言い出す。自己受容が不能となり自己喪失さえ起こす。

しかし、この詩人は違う。春を夢想するのではなく「冬が来たなら冬のことだけ思え」と言う。真民は「むしろ進んで冬をたまたまに、冬のいのちにふれよう」というのだ。真民は、幼くして父を亡くし苦勞したらしい。受容し難い冬を生きた詩人が「冬は冬のことを考えよ」と言う。牧師やホームレス支援の現場でいろいろな人と出会う。皆「冬」を生きておられる。自ら招いた苦勞もある。一方で貧困や社会的排除の現実を自己責任論では解決できない事態となつていく。非正規雇用に象徴される不安定社会は孤立化を促進させた。問題が構造的である分、複雑でさまざま解決できるものは少ない。「問題有」から「問題無」への明確な移行は難しく、両者が混在した不安定な社会となつていく。一つの危機を乗り越えても第二の危機、第三の危機が来る。それが困窮者支援の現実だ。つまり、なかなか春は来ない。一旦来ては冬に戻つたりする。

そんな現実を生きてる者たち、つまり冬を生きてる者たちには何が必要か。それは一緒に冬を過ごしてくれる仲間。伴走型支援の必然はここにある。前提となる考え方は「問題は簡単には解決しない」と言うことであり、となれば「伴走」という関係そのものが支援となる」ということだ。すなわち、いつでも「助けて」と言える関係が重要なのだ。

先にも述べたが、だから「伴走」は問題解決の「手段」ではない。それ自体が「目的」なのである。冬は冬のことを思うとは、苦難に向かい合いつつ、冬の中でいのちを見出す作業だ。「伴走型支援は春へと導くことではない」。少々いい過ぎかも知れないが、現在のよう不安定な冬の時代においては、冬と共に生きる伴走者の存在が生死の分かれ目となる。冬を生きて抜くために、冬のいのちのうちに触れるために、一緒にいてくれる伴走者が必要なのだ。

「光は闇の中に輝く」と聖書は言う。光を見出すには闇と向かい合う必要がある。残念ながら「闇は過ぎ去って光が来た」ではない。使徒パウロは「試練で、世の常でないものは、神は耐えられないような試練に会わせることにはないばかりか、同時にのがれる道も備えて下さる」(第一コリント10章)と言う。この「同時に」というのがいい。さらに「のがれる道」は「もう一つ別の道があるよ」と言うことではなく「出口」と訳せるらしい。すなわち、どこかに楽な別の道があるというのではなく、この試練の道の先にこそ出口がある。だから、この道と行けと言いたいのだ。冬を生きていくのだ。

もうすぐ冬になる。今すでに、人生の冬を迎えておられる方がいる。逃れようもなく冬はやってくる。冬の厳しさとキチンと向かい合うために、誰かとお会い、誰かと一緒に生きて行きたい。それが私たちの冬支度となる。「冬のいのちをふれたい」。誰かと一緒にいらなくてもいい。イエスの誕生の時、預言者のことばが成就した。「救い主は、インマヌエルと呼ばれる」。インマヌエルとは、「神と一緒にいて下さる」と言う意味である。あなたは、すでに一人ではない。もう、冬支度はできている。信じてほしい。

第一回 荒生田塾朗読会 山田誠浩 朗読会 「十二番目の天使」

10月10日(土)

午後3時より (2時半開場)

チャリティ朗読会 入場無料!

10月11日(日)

午前10時半より 特別伝道集会

講師：奥田知志牧師 (当教会牧師)



第二回 荒生田塾コンサート 沢 知恵

ピアノ弾き語りコンサート
「かかわらなければ」

10月24日(土)

午後2時より (1時半開場)

10月25日(日)

午前10時半より 特別伝道集会

講師：奥田知志牧師 (当教会牧師)



♪主な曲目

アメイジング・グレイス
こころ
満月の夕
胸の泉に (かかわらなければ)
故郷 他 *当日変更の可能性あり



7月8日発売
ニューアルバム

「われ問う」

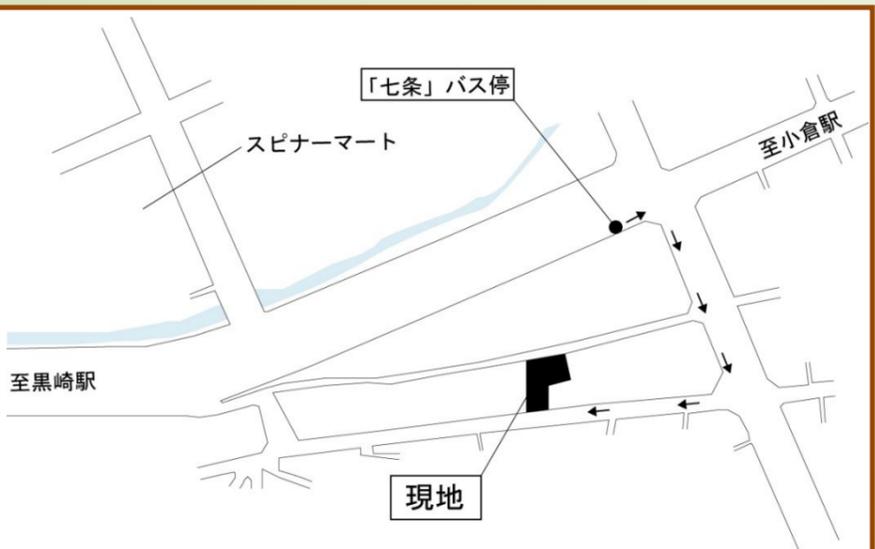
24日コンサート入場料

大人 1,500円
小中学生 1,000円

チケット購入申し込み受付中 (お電話・fax・メールにて)
TEL・fax 093-651-6669

駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

元NHKアナウンサーの朗読で
オグ・マンディーノの傑作を



〒805-0015 北九州市八幡東区荒生田2丁目1番40

電話/FAX (093) 651-6669

Email: higashiyahata.ch.1955@nifty.com

牧師：奥田 知志 石橋 誠一

協働牧師：藤田 英彦 森松 長生

定例集会

- ・主日礼拝(一般の部)
毎週日曜午前10時30分より
- ・子ども礼拝(小学生以下の部)
毎週日曜日午前9時30分
- ・少年少女会(中高生会)
毎週日曜日礼拝後
- ・聖書の学びとお祈りの会
夜の部 毎週水曜日午後7時30分
昼の部 毎月第3水曜日午後1時

牧師へのご相談 随時受付中!

牧師へのご相談を受け付けています。お困りのこと、誰にも相談できないこと、何でもかまいません。一人で悩まずにご相談ください。ともかく一緒に悩みましょう! 牧師には守秘義務がありますので安心して相談ください。

電話093-651-6669